

2024 年度
ミス・パリ エステティック 専門学校
名古屋校

自己評価報告

2025 年 4 月

学校法人ミスパリ学園
ミス・パリ エステティック 専門学校
名古屋校

2024 年度 自己評価について

学校法人ミスパリ学園が運営するミス・パリ エステティック専門学校名古屋校は、愛知県名古屋市東区に 2008 年 4 月に開校しました。同時期に姉妹校であるミス・パリ エステティック専門学校（大阪府北区）も開校しております。

本校の前身となるミスパリエステティックスクールは、34 年の歴史があり、エステティック教育においては、常に先進的な理論と技術を教授し、その授業時間も 300 時間、1,000 時間と増やすことにより、カリキュラムを充実させてきました。

専修学校として再スタートをする際には、全国でもあまり類を見ない 2 年間で 2,085 時間という非常にハイレベルのカリキュラムを編成し、即戦力人材の育成に注力し、有為な人材を関係業界だけでなく他分野にも多数輩出してまいりました。

これからも本校の教育理念である「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を基本とし、教育内容の更なる充実を図り、日本のみならず世界で活躍できる人材育成に向け、教職員一同努力してまいります。

以下にあるとおり 2024 年度の自己評価の取り組み状況をご報告いたします。

自己評価の目的は、本校に関する各項目を教職員が客観的に評価することにより、改善点を見出し、更に実践的な教育プログラムを充実させることにより、学生はもとより教職員の質の向上に資するものです。

学生が卒業後も活躍できる環境の醸成に向け、今後も引き続き、企業や業界団体の皆様のご理解、ご支援を賜りたいと存じます。

1. 評価実施期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

2. 実施方法

(1)校長以下、課長、教育課が中心となり、各教職員が連携して評価を行う。

(2)評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

- (3)評価は、年度終了後速やかに行い、年1回行うこととしている。
- (4)評価は講師研修会にて各職員に評価表を配布、各項目の内容、今年度の具体的な取り組みについて解説をしながら評価を行った。
- (5)評価結果は、学校関係者評価委員に報告するとともに、現状と今後の改善、解決に向けた取り組み等を公表することとする。

3. 自己評価の項目

- | | | | |
|------------|---------------|------------|---------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 | (4)学修成果 |
| (5)学生支援 | (6)教育環境 | (7)学生の受入募集 | (8)財務 |
| (9)法令等の遵守 | (10)社会貢献・地域貢献 | | |

4. 評価項目に対する評価（5段階とする）

- 5：良好 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

以上

2024年度 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 自己評価表

1. 学校の教育目標

本校の教育理念「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を念頭に、学校法人ミスパリ学園としての自覚と自負の下、「充実した教育課程」「学生獲得」「就職確保」の3本柱を全教職員の力で全うし、わが国トップクラスのトータルビューティの専門学校を目指す。

2. 本年度に定めていた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 担任、学生募集、ご家族、高校との連携を密にする。
- 2) 気づき、問題点に対して、行動を素早く対応できる講師を目指す。
- 3) 教職員の研修を実施。
- 4) 業務の明確化、見える化。
- 5) 職業実践における教育レベルの統一化。

3. 自己評価

- 5：良好 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(1) 教育理念・目標

	評価項目	評価	前年
1	学校のビジョン及びそれを実現するための方針を策定しており、かつ、教職員に理解されているか。	5	5
2	特色ある学校づくりを進めるために、求められる仕事及び求められる人間性を明確にし、学校独自のカラーを出しているか。	5	5
3	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか。	5	5
4	目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	5	4
5	教育目標、育成人材は学科等に対する社会のニーズに向けて方向付けられているか。	5	5

取り組み

- ・教育課程編成委員会において、企業からの意見を講師研修会で全教職員に周知し、内容の共有を図る。
- ・企業からの意見をもとに、具体的な指導方法や伝達手法について協議し、指導方法の改善を検討する。
- ・保護者アンケートを年間2回実施し、学校の取り組みの周知を図るとともに、家庭のニーズを把握する。
- ・保護者アンケートの集計結果を職員会議で共有し、保護者の期待や要望を教職員全体で把握する体制を整える。
- ・「個人目標計画表」および「学年目標・計画表」に基づき、2か月に1回の振り返りと、必要に応じた学年ミーティングを実施する。また、職員会議を通じて教員と学生募集担当の業務内容を共有する。

課題

- ・学生が卒業時までには育成人材像を理解し、自ら目標をもって授業に臨めるよう、学生と教職員の信頼関係が構築できるよう改善する。
- ・各種計画表を有効に活用し、教職員の個人目標および学年目標の達成を図るとともに、ミーティング内容を教職員全体で共有できるシステムを構築する。

今後の取り組み

- ・教職員全員が「ミスパリ基準」を意識し、社会で活躍できる人材の育成を念頭に指導することが重要である。学生が「やってみよう」と感じられるような声かけを工夫し、学園が掲げる育成人材像に沿った教育を実践し、達成する。

- ・各種目標の取りまとめおよび評価結果については、年度初めに共有の場を設け、全教職員がその内容を理解し円滑に行動へ移す。

(2) 学校運営

	評価項目	評価	前年
1	事業計画等に沿った運営方針が策定されているか	5	5
2	学校運営などに学生の意見が反映されているか	5	5
3	地域社会への貢献の一環として、学校施設を地元に開放しているか	5	5
4	地域との協力関係が確立されているか	5	5
5	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されていて、有効に機能しているか	5	5
6	人事・給与等に関する規程等は整備されているか	5	5
7	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	5	5
8	教職員の健康診断を実施しているか	5	5
9	各種システム化等により業務の効率化が図られているか	5	5
10	ホームページは、適宜更新し、見やすくしているか	5	5
11	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか	5	5
12	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に、何らかの方法で公表しているか	5	5

取り組み

- ・本校の教育活動に対する理解を得るため、保護者アンケートにおいて「年間行事がわかるような資料が欲しい」との意見が挙がったことを受け、保護者向けに学校の年間行事等を記載した資料を配布する。
- ・学生が参加する学校行事については、学生実行委員を選出し、講師とともにミーティングに参加させることで、学生の意見を反映した運営を行う。

- ・新たな地域貢献の一環として、高齢者や障がいのある方を対象とした地域活性イベントにおいて、学生および教職員がボランティアとして参加する。
- ・学校運営に対する教職員全体の理解を深めるため、講師研修を活用し、目標に対する評価および改善策の検討を行う。

課題

- ・教職員全体で学校運営に対する認識を継続的に深めるための取り組みを工夫する。
- ・講師研修に全教職員が参加し、学生募集担当と教員の意思統一を図る。
- ・保護者向けの年間行事予定表の提示時期を早め、家庭内でも校内予定を把握しやすくする。
- ・地域との関わり方や具体的な取り組み方法を検討し、ボランティア活動の機会および参加者数を増加させる。併せて、エステティックマスター学科による福祉施設でのボランティア活動を再開する。

今後の改善策

- ・地域のボランティア活動に参加する機会を増やし、学生が就職時に社会貢献への意識を持ち、主体的に行動できるよう教育する。

(3) 教育活動

	評価項目	評価	前年
1	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか	5	5
2	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか	5	5
3	シラバス（授業計画書）は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか	5	5
4	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか	5	5
5	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか	4	5
6	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価は公平性・妥当性が保たれているか	5	5
7	評価結果による教員面接・指導が行われているか	4	5

8	未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか	5	5
9	資格対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか	5	5
10	人材育成目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	5
11	教職員のスキルアップのための研修を行っているか	5	5
12	研修や出張で学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか	5	5
13	教職員の授業を他の教職員、または外部関係者が参観、講評できる制度があるか	5	5
14	教職員による自己評価が定期的に行われているか	5	5
15	インターンシップ等を利用して、職業選択について深く考える契機を提供できているか	5	5
16	関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	5	5

取り組み

- ・週に1回を目安に小規模な職員会議を実施し、より細かな共有事項の伝達を行う。
- ・全教員が各技術の指導ポイントをディスカッションする研修を実施し、学生への伝達方法の統一と、指導時における工夫を図る。
- ・各単元の修了チェック、総評、手直しまでを授業時間内に実施できるようスケジュールを調整し、未修了科目に対する対策を講じる。

課題

- ・クラス内における学習理解度の差がある為、授業の進行を検討する必要がある。
- ・学生がより視野を広く持ち、自ら考えて行動できる「気づける人」となるよう指導する。
- ・学生アンケートにおいて、実技実習に対する課題意識が高まっている。

今後の改善策

- ・教職員の指導力を強化するため、研修評価担当者を定め、講師の理解度や習得度合などの達成状況を明確に評価する。

- ・各単元の初回授業時に授業回数と到達目標を学生に説明することで、学生自身が各科目の目標を把握し、学修成果の向上を図る。
- ・サロンで働くことを想定し、自身の使用スペースに限らず、共有スペースにまで視野を広げて環境を整えることで、美意識を高める指導を工夫する。
- ・学生が顧客のために自ら考え、行動できるよう、技術や接客行動の意味を説明し、理解を深めて判断力を高める教育を行う。
- ・職員会議を規模別に分類し、随時学年ミーティングを含めて共有の機会を増やす。
- ・引き続き、年 2 回実施する授業アンケートの結果をもとに、指導方法の標準化および指導力の向上を目的として、教職員面談を徹底する。
- ・学生の授業満足度を高めるため、教職員に対して「教育に関するアンケート」を実施し、教員が抱える学生指導に関する課題を共有できる研修を行う。
- ・2024 年度より新たに導入した電子黒板等の活用方法を校内に広く展開し、試験や資格取得の実績向上につなげる。
- ・教員の技術力を向上させるため、教員同士で技術チェックを行い、全体の技術水準の底上げを図る。

(4) 学修成果

	評価項目	評価	前年
1	学生の就職に関する目標を設定したか。またその成果は十分か	5	5
2	学生の資格取得目標を設定し、その結果検証をおこなっているか	4	5
3	中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか	5	5
4	卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その改善策を講じているか	5	5

取り組み

- ・就職については、専任の就職担当者を中心に担任と連携し、学生をサポートすることで、就職内定率 100%を達成する。
- ・講師研修において、企業の担当者から活躍している卒業生の長所などについて情報提供を受けることで、企業が求める人材像を明確にする。
- ・資格取得目標を 100%と設定し、それに向けた年間授業計画を立てる。
- ・資格合格者を教職員全員が確認できるようデータ化し、随時把握できる体制とする。

課題

- ・ 学生が学習のモチベーションを維持・向上できるよう関わりを持ち、進級率、資格試験の受験および合格率の向上を目指す。
- ・ 学生が社会に出るための心構えを身につけ、内定辞退および就職後の早期離職を防止する。
- ・ 技術習得において、学生が技術の要点を理解し、正しい技術を実践できるようにする。
あわせて、技術効果を実感できる授業づくりを工夫する。
- ・ 中途退学の減少を目指し、学生一人ひとりの状況に応じた対応を検討する。

今後の改善策

- ・ 学生が学習のモチベーションを維持・向上できるよう、毎日の授業で到達目標を設定し、その達成度を評価する仕組みを構築する。この取り組みにより、進級率の回復、資格試験の受験率・合格率の向上を図る。
- ・ 各資格試験の日程に合わせた段階的な授業進捗と模擬試験を計画的に実施し、合格率の向上を図る。また技術の要点を理解できるよう、指導方法を工夫する。
- ・ 学生の変化を迅速に把握し対応するため、各クラスの出席表を常に掲示し、全教職員が学生の出席状況を把握できるようにする。

(5) 学生支援

	評価項目	評価	前年
1	学生の心身面での健康管理体制が整っているか	5	4
2	学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じているか	5	5
3	学生のサークル活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか	5	5
4	災害など非常時の危機管理体制が整っているか	5	5
5	奨学金等の経済的支援があるか	5	5
6	学費減免、学費分納制度があるか	5	5
7	学生寮を保有しているか	5	5
8	卒業生への再教育、または就職支援体制はあるか	5	5

9	社会人のニーズを踏まえた教育環境は整備されているか	5	5
取り組み ・学生面談を1年生は年間4回（4月、5月、7月、12月）実施し、2年生は年間2回（4月、10月）実施する。また、学生の精神・健康状態に応じて、適宜個別面談を行う。 ・奨学金担当者を中心に学生の利用状況を確認し、学習を継続させるための経済的支援を受けられる環境づくりを行う。 ・心理カウンセラー制度を導入する。担任講師以外にも学内・学外問わず相談できる窓口を増やし、学生が話しやすく、生活しやすい環境を整える。 課題 ・精神的、社会的に様々な問題を抱える学生へのサポート体制を構築する。 ・入学時から2年間の学費を見越したアドバイスやサポートを行い、金銭的に困難な学生へのフォローを行うため、講師研修にて奨学金についての理解を深め、学生の生活環境・学習環境を踏まえた研修を実施する。全教職員がこれを把握したうえで学生サポートを行う。 ・心理カウンセラー制度をより広く浸透させる。 ・学年の枠に捉われず、全教職員が個々の学生との触れ合いを増やす。 今後の改善策 ・心理カウンセラー制度の周知とともに、利用しやすい環境やシステムを整える。 ・卒業後に社会人となるための心構えと自覚を持たせるため、学則に準じた規律ある行動がとれるよう、全教職員が一貫した姿勢で学生指導にあたる。			

（6）教育環境

	評価項目	評価	前年
1	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されているか	5	5
2	学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられているか	5	5
3	防災に対する体制は整備されているか	5	5
4	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか	5	5
取り組み ・年間2回、校舎修繕計画を立て、効率的に修繕を行う。			

- ・年度初めに、フェイシャル機器を新調。
- ・年度末に、大規模な施設・設備点検を行う。
- ・学期末に、授業で使用する備品の点検・補充を行う。
- ・電子黒板を導入し、デジタルネイティブともいわれる世代に対応した授業展開を図る。

課題

- ・機器の使用前点検が確実に実施できる方法を検討し、使用前点検を徹底する。
- ・電子黒板の活用レベルに講師間で差がある。

今後の改善策

- ・機器の使用前点検について、実施および点検記録の記載を講師研修後に行い、確実な実施を保証する。
- ・動画の活用やスライド作成アプリなどを使用している講師から全教職員に展開できるように、会議などを活用して展開の機会を設ける。

(7) 学生の受入募集

	評価項目	評価	前年
1	学生募集計画があるか。また成果は十分か	4	3
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか	5	5
3	学校案内等には目指す資格・検定試験等が明示されているか	5	5
4	学校案内等には学費・教材費が明示されているか	5	5
5	入学（予定）者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか	5	5

取り組み

- ・引き続きオープンキャンパスではオンラインと来校型の2種類の形態で実施し、本校の魅力や特徴が伝わるような内容を構築し、遠方からの入学者の増加につなげる。
- ・学生募集計画を全教職員が理解できるよう、職員会議などを活用し共有の機会を増やす。
また、進路相談の底上げをはかるために研修を実施するとともに、学生募集担当と教員が一緒に進路相談に入る機会を増やす。
- ・入学前の説明会や進路相談で、エステティックマスター学科や専門職大学の説明を行い、学習意欲を高めていく。また、専門職大学との合同オープンキャンパスを行うことで、ミスパリ学園の教育方針など、より多くの高校生に興味をもってもらえる機会をつくる。

課題

- ・定員を上回る入学希望者を獲得する。
- ・新規来校者を増やす。
- ・新規来校者数に対する志願率（歩留まり）を上げる。

今後の改善策

- ・HP、ポータルサイト、SNSを強化する。
- ・美容に興味のある友人と一緒に参加するイベントを企画する。
- ・男子限定イベントを開催する。
- ・オープンキャンパスの満足度を高めるために、高校生の目線に立ちイベントの見せ方を工夫する。
- ・オープンキャンパスを運営する在校生・教職員の満足度向上をはかる。

（８）財務

	評価項目	評価	前年
1	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか	5	5
2	財務について会計監査が適正に行われているか	5	5
3	財務情報公開の体制整備はできているか	5	5

取り組み

- ・財務管理に関する現状の取り組みについて、監事より高評価を受けている。

課題

- ・教職員のコスト削減に対する意識を高める。

今後の改善策

- ・より緻密な営繕計画を策定すること。

（９）法令等の遵守

	評価項目	評価	前年
1	法令や専修学校設置基準を遵守しているか	5	5
2	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか	5	5

3	学生、非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか	5	5
4	自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか	5	5
5	自己評価結果を外部に対して公表しているか	5	5
取り組み ・該当する全教職員を対象に自己評価結果のフィードバックを行い、問題点、課題の共有を行った。 ・学生を対象とした SNS 使用に対する注意喚起や、正しい使用方法について、ホームルーム等の時間での周知や、事故が起こりやすい長期休暇前に注意喚起を行っている。 課題 ・引き続き職員全員が法令等の遵守を意識して行動できるようにする。 今後の改善策 ・現代において使用禁止されている言葉など、常に新しい情報を収集し学生の人権に配慮した対応を行うこと。			

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価	前年
1	学校の実習施設を活用するなど高等学校の職業教育の実施に協力・支援しているか	5	5
2	環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか	4	4
3	受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	5	5
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	5	5
取り組み ・ごみ分別に対する注意喚起を行い、学生が自主的な行動ができるように掃除の際にごみの分別を学生と共に行っている。 ・高齢者や障がいのある方、地域課程を対象とした地区イベントに参加し、マッサージボランティアを行った。 ・外国人留学生の受け入れ。 課題 ・率先して新たな地域貢献の実施を検討する。			

- ・バザーなどの収益を寄付することは学生に伝達できているが、その行為が実際に社会貢献に繋がっていることを説明し、学生が自らの貢献を実感できるようにする。

今後の改善策

- ・引き続き留学生の入学規定を全教員に徹底周知し、受入れ体制を整える。
- ・中学、高校のインターンシップを積極的に受け入れる。